

能代市教育委員会 事務点検・評価報告書

(平成22年度対象)

平成23年8月

能代市教育委員会

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定による事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I 点検・評価の趣旨等	1
1 点検・評価の趣旨	
2 点検・評価の対象	
3 学識経験者の知見の活用	
4 報告書の作成	
II 点検・評価の結果	
1 教育行政	
(1) 教育環境の整備	3
2 学校教育	
(1) 主体的で創意に満ちた教育活動の推進	5
(2) 基礎学力の向上を図る学習指導	7
(3) 心豊かでたくましい子どもをはぐくむ指導	9
(4) 幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修	12
3 社会教育	
(1) 生涯学習推進・社会教育振興	14
(2) 文化芸術活動の振興と文化財の保存・継承	17
(3) 生活や地域における課題解決のための学習機会の提供	19
(4) 芸術文化の振興と福祉の増進を図る	22
(5) 図書館サービスの充実	24
(6) 気軽に交流できる環境づくり	27
4 市民体育	
(1) スポーツを楽しめる環境を整える	29
III 教育委員会の運営状況	
(1) 教育委員会の開催状況	32
(2) 教育委員の活動状況	33

I 点検・評価の趣旨等

1 点検・評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、「教育委員会の責任体制の明確化」を目的として、同法第27条に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月から、すべての自治体の教育委員会自らが、毎年、その教育行政事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、これを公表することが義務付けられました。

そこで、本市教育委員会は、当該法律の規定により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表いたします。

今年度においても、法律の規定に基づき、事業の点検・評価を実施し、昨年度との比較等を行い、今後のより効率的で効果的な事業の展開に資するものとしします。

2 点検・評価の対象

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条で教育委員会の職務権限とされている事務のほか、本市教育委員会が所管するすべての事務を対象としますが、実際の点検・評価にあたっては、「能代市の教育」に記載されている施策を12項目に集約し、実施しております。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項で、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることが求められておりますので、本市教育委員会では、教育に関し学識経験を有する次の2名の方から、意見をいただきました。

○秋田大学教育文化学部教授 佐藤 修 司

○元能代第二中学校校長 佐々木 貞 治（平成8年度～9年度：学校教育課長）

4 報告書の作成

報告書の作成スケジュールは、次のとおりです。

- ①各課及び施設等において、所管事務の点検・評価案（点検・評価シート）を作成
- ②学識経験者から、点検・評価案について意見を聴取
- ③点検・評価案に学識経験者の意見を加えて、報告書として作成
- ④教育委員会8月定例会で、報告書について議決
- ⑤報告書を9月議会に提出するとともに、ホームページ等で公表

Ⅱ 点検・評価の結果

施策の項目	(1) 教育環境の整備
方針・目標	老朽校舎の改築と耐震化の推進 中学校の武道必修化に向けた武道場改築の推進
目標値	① 老朽校舎の改築事業の推進 小学校 2 校 ② 耐震化の推進 小学校 4 校 ③ 武道場改築事業の推進 中学校 4 校
事務事業の実績	① 老朽校舎の改築事業の推進 ○第四小学校改築事業 ・第四小学校外構整備工事 ・第四小学校グラウンド整備工事 (H22～23 継続事業) ○二ツ井小学校改築事業 ・二ツ井小学校外構整備工事 (H21～22 継続事業) ・二ツ井小学校グラウンド整備工事 (H22～23 継続事業) ※2校とも、平成 22 年 3 月に校舎・体育館建設工事が完了し、同年 7 月 26 日に供用を開始している。 グラウンド整備工事は、飛砂防止等のためグラウンドを芝生化する。 ② 耐震化の推進 ○淳城西小学校 (体育館) 耐震補強工事 ○淳城南小学校 (校舎・体育館) 耐震補強工事 ○向能代小学校 (校舎) 耐震補強工事 ○鶴形小学校 (校舎・体育館) 耐震補強工事 ※小学校 4 校の耐震補強工事実施により、全小中学校の耐震補強工事が完了した。 ③ 武道場改築事業の推進 ○能代第一中学校武道場建設工事 ○能代第二中学校武道場建設工事 ○東雲中学校武道場建設工事 ○能代南中学校武道場建設工事 ※中学校 7 校中 5 校に武道場があり、そのうち老朽化した 4 校の武道場改築を行った。 ※中学校学習指導要領の改訂により武道が必修化となった。 (H24.4 月～完全実施)
点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ① 老朽校舎の改築事業については、小学校 2 校とも外構整備工事が完了し、グラウンド整備工事に着手した。平成 23 年度にグラウンド整備工事が完了し、プール建設工事を実施すると改築事業が全て完了することになる。 ② 小中学校の耐震化の推進については、小学校 4 校の耐震補強工事を実施した。交付金を活用するなどし事業を前倒しして、当初の計画を大幅に短縮し完了することができた。 ③ 武道場改築事業の推進については、中学校 4 校の武道場改築工事が完了した。

<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①は事業を継続。②、③は事業を終了。</p> <p>① 老朽校舎の改築事業については、第四小学校と二ツ井小学校のグラウンド整備工事完成とプール建設工事の23年度実施を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第四小学校と二ツ井小学校の改築事業終了後は、老朽化したプールの改築等学校施設の一層の整備充実を図りたい。
<p>学識経験者の意見</p>	<p>① 逼迫している財政事情にありながら、四小、二ツ井小の老朽校舎が改築されたことは、市当局の並々ならぬ努力の賜物である。</p> <p>② 公立小・中学校の耐震化率は、平成22年4月1日現在、秋田県は70.6%で全国の順位は21位となっている。能代市の小中学校の耐震化診断、耐震化工事が迅速に完了したことは評価される。</p> <p>③ 学校の施設・設備の不備が原因で発生する事故は、本来あってはならないことである。学校管理規則では、校長の施設・設備の保全義務を定めているが、危機管理はできる限り多くの目で行われることが望ましい。</p> <p>教育委員会の担う事務の一つに「校舎その他の施設および教具その他の設備の整備に関する事」とある。</p> <p>日ごろから校長と率直な意見交換を行うと共に、定期的に学校を訪問して、専門的な視点から校舎校地の安全点検に努めることが望ましい。</p> <p>④ 耐震化が完了し、また、老朽校舎の改築が着実に実行されていることは大変望ましいことである。東日本大震災の経験を踏まえ、また、秋田でも予想されている地震の発生に備えて、子どもたちの生命と安全を確実に守り、さらに、住民の避難場所を十分に確保するため、引き続き、学校の施設・設備の点検・整備、危機管理体制の構築に努めていただきたい。</p> <p>⑤ 校舎改築により、教育環境が大きく改善されていることから、そのことを生かした教育活動が行われることを期待したい。統廃合も行われており、新しい学校が新たな地域の中核となっていけるような取り組みを行っていただきたい。</p> <p>⑥ 武道場の整備が行われていることは望ましいことであるが、同時に、ソフト面において、武道の指導に関する研修を充実するなどして、指導中に事故が起こらないように手立てを尽くしていただきたい。</p>

施策の項目	(1) 主体的で創意に満ちた教育活動の推進
方針・目標	児童生徒の感性を磨き、思考力や表現力を高め、創造力を豊かにするため、各校の年間計画の策定を進めるとともに学校図書館図書の実充を図りながら、読書活動を推進する。
目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての小・中学校が自校の特色を生かした上で読書活動の実充を図り、平成22年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査で「読書が好きですか」の割合について、「好き」を80%以上にする。 ・学校図書館の図書の新規購入及び廃棄等の整理を進め図書の実充を図る。
事務事業の実績	<p>① 「能代市小中学校における読書活動推進計画」に基づいた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 各校の読書活動指導計画の作成（7/30集約完了） イ 能代市読書交流パンフレット「能代っ子おすすめの一冊・心の一冊」を11月の読書週間に合わせて作成し、各校に配布。環境物としても活用 ウ 特色ある読書活動を教育情報誌「教育のしろ」のコラム「読みの風景」等で紹介 エ 図書事務補助員及び図書館担当教諭の研修機会の設定（6/17 読書活動推進研修会を市立図書館と連携して実施、創意ある読書活動、学習センター機能の実充について情報交換、本の修理技能講習等） オ 学校支援ボランティアの活用促進（9小学校2中学校に9名が活動）他にPTA等の読み聞かせ、中学生の幼稚園等への読み聞かせ活動（2校） カ 市立図書館等との連携 市立図書館の有効利用促進や団体貸し出しの実施、出前お話し会の実施「子ども読書夢プラン事業」による派遣職員の活用（小規模校6校に派遣図書事務補助員のいない学校の図書館整備と読書指導） <p>② 学校図書館図書標準達成状況の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 「学校図書館図書標準」の達成を目標とし、各校の学校図書館図書標準達成状況に応じた、図書整備費を措置。適切な配置と廃棄を各校に助言 イ 廃校校舎（淳二小）の図書を補修して再活用。市立図書館の指導により、図書補修のボランティア養成（浅内小で保護者等1月に3回のべ27名参加） ウ 廃校校舎（二ツ井地域）の図書を、指導主事が巡回し状況確認し再活用の検討。学校の図書関係職員に情報提供
点検評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書を好む小学生は83.6%、中学生は73.9%であり、中学生で未達成。 ・全小・中学校で、朝か昼に全校で一斉読書を実施。 ・学校図書事務補助員の未配置校6校に「子ども読書夢プラン事業」による派遣職員の巡回で、全小・中学校を支援する体制を整えた。 ・ボランティア等の読み聞かせが定着している学校も増えてきた。（向能代小のべ年90回、竹生小月1回実施、朴瀬小月2回実施、他は年数回の実施） ・平成21年度の学校図書館標準達成状況は80.2%であったが平成22年度は83.6%。10校で図書の廃棄整理を行った。

2 学校教育

【学校教育課】

施策の項目	(2) 基礎学力の向上を図る学習指導
方針・目標	児童生徒に主体的な学習の場を保証し、学力の向上を図る。
目標値	秋田県の学習状況調査（小学校4年から中学校2年対象悉皆調査）で、各学年・各教科において市平均が県平均を上回る結果となるようにする。質問紙調査において、学習意欲、自力解決に関する評価項目で肯定的な評価が可能な限り高い割合を占めるようにする。
事務事業の実績	<p>① 県・国の学習状況調査の学校分析と補充・改善の実施、研究主任会を通じた指導助言、報告書の提出（全国調査後7月、県調査後2月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童生徒の補充学習の実施の促進 ・学校や教師の課題を明確にした授業改善の促進 <p>② 学校訪問指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教育庁北教育事務所長、山本出張所長訪問への指導主事随行(6-7月) ・市教委学校教育課指導主事による全学級訪問(6-10月) ・市教育長訪問（学校教育課長、同参事、指導主事随行）(11月) ・指導主事による要請訪問（市教委は事前研修からのサポート） <p>③ 研修機会の提供と各校の情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究主任の研修会実施（7月、県及び全国調査の活用の情報交換） ・紀要『教育課程の展開と実践』の発行(3月)各校の校内研究のまとめ ・教務主任・研究主任合同研修会(1月)で、小・中連携の各中学校区について実践交換し、その中で学び方に連続性を持たせることについて共通理解を図った。
点検評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況調査（22年12月実施）の結果は、小学校4・6年と中学校1・2年の全教科、小学校5年の算数が県平均を上回った。小学校5年の国語は-0.9ポイント、社会は-0.8ポイント、理科は-1ポイントで、県平均とほぼ同程度。学校間、学年間の格差があり、実態に即した指導方法の工夫・改善が求められる。 ・学習意欲は「勉強が好きだ」の割合は、小学校4年80.3%（県比-1.5%）、5年78.9%（+3.5）、6年67.5%（-2.5）、中学校1年46.2%（-5.2）、2年42.6%（+4）で、県比でやや低い状況であるため向上させたい。 ・自力解決は「わからないことでも自分の力で答えを見つけられるよう、勉強したい」の割合は、小学校4年91.8%（県比-2.2%）、5年94%（+1.5）、6年91.6%（-0.9）、中学校1年88.5%（-0.9）、2年87.5%（+5.5）で概ね良好な状況であるので維持したい。
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県平均を下回る項目の改善については、次の内容を、学校訪問指導、研修機会の提供、研究主任会等の主体的な取り組みの促進、情報提供等の支援により行う。 <p>（主な内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校における評価を生かした授業改善 学習規律の維持・徹底 小・中連携による学び方指導 家庭学習支援を含む補充指導の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・教育情報の提供や各学校の実践や研究成果の共有化については、教育情報誌「ふいご」の年12回発行、紀要『教育課程の展開と実践』の作成、各校や個人の実践研究の発表機会の設定により、充実させる。

<p>学識経験者の意見</p>	<p>① 秋田県は学習状況調査において全国のトップクラスにあり、能代市が他の市町村に比べて同等もしくは平均以上にあることは、少人数指導や習熟度別指導、家庭学習、および児童生徒の実態に応じた発展的・補足的指導が、一人一人の児童生徒に応じて実施されてきたことがよい効果を生んでいるものである。</p> <p>② 学力の向上を図るためには、どう授業改善をすべきか具体的に考える必要がある。教師の意図的・計画的・組織的な研修は欠かすことのできない要素である。その研修を実りあるものにするために、市教委が事前からサポートすることは大切なことである。研修と日常の教育活動の一体化がより望まれる。</p> <p>③ 今の学校には、外部からの様々なサポートがあり、そのことが学力向上の要因のひとつになっている。市教委としては直接学校に赴いての指導・援助と、どのようなサポーターをどの学校に派遣するかの間接的な支援がある。</p> <p>④ 基本的な生活習慣や学習習慣を確立することは、基礎学力の向上と密接な関連があり、生涯学習課等と連携を図り、望ましい習慣の確立を家庭に呼びかける施策があってもよいのではないか。</p> <p>⑤ 中学校において、学習の意義や目的を考えさせるためには、キャリア教育は効果がある。市教委としてはキャリア教育を受け入れる企業や職場を紹介するキャリア教育バンクが作成されることも考えられる。</p> <p>⑥ 学習状況調査において、基礎的な知識および技能の習得は高いものがあるが、得た知識・技能を活用することや思考力・判断力・表現力・読解力等に課題があるといわれるが、それへの指導が今後の課題である。</p> <p>㊦ 学力だけでなく、学習意欲・態度についても、全県と比較しておおむね良好な状態にあると言える。値には学年ごとの違いが見られるようなので、全県レベルを下回る学年についてはその原因の精査と対応をお願いしたい。</p> <p>㊧ 小中合同での授業検討会や一貫カリキュラムの作成、出前授業など、小中連携についてはぜひ進めていただきたいが、教職員の負担が大きく増えないように、学校への支援を行っていただきたい。</p> <p>㊨ 勉強好きの割合が学年進行で低下していることはやむを得ないとしても、特に中学での低下が大きいことから、小中連携などの手立てにより、低下の幅を縮減することに努めていただきたい。</p>
-----------------	--

施策の項目	(3) 心豊かでたくましい子どもをはぐくむ指導
方針・目標	いじめや不登校等の生徒指導上の問題について、未然防止や早期発見・対応に努めるために学校と関係機関の連携や学校・家庭・地域が一体となって子どもを守り育てるための体制をつくる。
目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止、早期発見、適切な対応ができる体制をつくる。 ・不登校の出現率を1,000人当たり6.0人以下にする。 ・全国学力・学習状況調査（質問紙調査）「学校で友達に会うのは楽しい」及び「学校で好きな授業がある」で、肯定的な回答をした児童生徒の割合を100%近い値にする。
事務事業の実績	<p>① 心の教室相談員の配置</p> <p>子どもたちが学校で気軽に悩み等を話し、ストレスを和らげる相談者を配置し、心のゆとりをもてる環境を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校12校中5校(児童数300人を超える学校)に4名配置 ・中学校7校全校に6名配置 (昨年度より対象校1増) ・1年間に心の教室を訪れた人数(延べ人数)8,433名(昨年度 7,622名) ・年間の相談件数 705件(昨年度 459件) ・相談員がかかわった不登校児童生徒の総数11名、内改善傾向5名 (昨年度 総数3名、内改善傾向2名) ・いじめに関わる相談件数2件、内改善が見られた件数2件 (昨年度 1件、改善1件) <p>② 適応指導教室「はまなす広場」の設置</p> <p>不登校児童生徒に対して、個別指導を通して学習意欲・自立心・社会性等を育て、学校復帰への手助けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級者10人 内復帰した児童生徒数4人(昨年度8人、内復帰2人) <p>③ 「風の子電話」の設置</p> <p>電話や来所による教育相談を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間相談件数 電話27件 来所44件 内不登校に関する相談30件 その内学校復帰した児童生徒4人(昨年度電話18件 来所20件) ・学校や教育研究所、他機関との連携 ・適応指導教室との連携強化 <p>④ 不登校保護者会の開催</p> <p>不登校児童生徒をもつ保護者の援助活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第3木曜日19:00～21:00 のべ70名参加4名の学校復帰に関わる <p>⑤ 各小・中学校への指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策事業のリーフレット等を定期、随時に学校を通して保護者に配付。ホームページにも掲載。 ・毎月、支援を要する児童生徒(欠席日数の多少にかかわらず)の欠席日数、学校での状況と学校の対応、家庭での過ごし方等について報告を受け、取組へ指導助言した。 ・市生徒指導主事会(年4回)での、情報交換と小・中学校の連携強化、未然防止に向けた取組の呼びかけ。 ・総合教育センターの学校支援講座「不登校・いじめ」「問題行動への

	<p>対応」(出前講座)を2校に勧め、実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師研修会で教育相談員の講話により、不登校の理解をはかった。 ・心の教室相談員、教育相談員、スクールカウンセラーを校内の生徒指導研修会等に活用し、情報交換や校内連携を充実させた。
<p>点 検 評 価</p>	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめは、中学校2件が報告されいずれも解消。 ・不登校の出現率は9.5人(児童生徒1,000人あたり)で、国の11.5人(平成21年度)を下回っているものの県の8.6人(平成21年度)を上回っており、目標とした6.0人を超えている。出現率が20年度7.5人、21年度8.0人、22年度9.5人と少しずつ増加している状況である。 ・支援対象として報告された51名中年度内に復帰した児童生徒は14名。 ・児童生徒による暴力行為は1件で、全体的にはおおむね安定した学校生活の実現できている。 ・全国学力・学習状況調査(質問紙調査)で、「学校で友達に会うのは楽しい」は小学校は97.3%、中学校は96.4%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。「学校で好きな授業がある」は、小学校は96.6%、中学校は85.5%である。いずれも全国平均を上回り県と同等であるので、全体の満足度は高い状態で、個への対応の方に目を向けたい。
<p>課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他()</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自己有用感を高め、満足度の高い学校生活を送れるようにすることを基盤とする。人間関係のトラブルは日常的に発生しているが、いじめは絶対に許さない姿勢を全校の児童生徒及び教職員全員が共有する環境を作る。 ・指導主事が学校に出向いて、いじめ・不登校防止研修会を市内全教職員に実施し、未然防止や早期発見、適切な初期対応を強化する取組みを行う。(センター学校支援講座との連携も含む) ・Q-U検査(「楽しい学校生活を送るためのアンケート」)を全中学校1年生に実施し、不登校やいじめ被害の可能性の高い生徒の早期発見に努める。また、中一担任の研修を実施、Q-Uの結果を活用した取組を生かし、成果を全学校で共有し、次年度へ継続していく。 ・適応指導教室を学校復帰に結び付き、個々の児童生徒の状況に合わせやすい環境整備(場所替えも含む)に努める。また、風の子電話や不登校保護者会等と連携強化できる環境づくりをする。学校の職員との協同した指導や活動の充実をはかる。(不登校支援のセンター的機能の構築)

学識経験者の意見

- ① 不登校の要因や背景は一樣ではなく、多様化・複雑化している。場合によっては、義務教育終了後まで引きずることもあり、家族にとっても深刻な負担と影響を及ぼすことがある。保護者はその原因を本人や家庭でなく、学校の指導に問題があると一方的に決めつける場合がある。学校の指導助言がいつそう事態を悪化させ、誤解を招くことも往々にしてある。
両者の間にあって、その悩みに寄り添い施策を講じるのが行政の役割であり、市教委の施策がこれで万全であるということはないが、適応指導教室、スクールカウンセラーの活用、教員の研修の強化、不登校児童生徒の居場所の提供、専門機関との連携を図るなど、考えられるあらゆる施策を講じていることは評価できる。
- ② 「心の教室」を訪れた児童生徒数や相談件数及び適応指導教室への通級者が21年度より増加している状況は、広報活動等これまでの取り組みが功を奏しているとも受けとめられる。しかし児童生徒の総数が減少している中で、相談件数や通級者が増えていることは、不登校やいじめが依然として憂慮すべき課題であることには間違いない。
- ③ 不登校やいじめについては、発生しないための教職員への指導や支援、そして起きた場合の保護者への受容と共感等悩む側に立った支援が、これからも市教委に求められる。
- ④ 可能な手立ては十分に尽くされていると思われる。その中で、不登校の出現率が若干高まっていることは残念なことである。
- ⑤ 全体的に、子どもの人間関係力、コミュニケーション力が低下していっているように思われることから、家庭、学校・幼稚園・保育所が連携して、子どもの体験活動、集団活動を増やしていくことが求められる。授業も含めて、子どもたちの共同活動を増やし、自律的に挑戦し、失敗し、立ち上がる経験を増やすような工夫をお願いしたい。

2 学校教育

【学校教育課】

施策の項目	(4) 幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修
方針・目標	学校や教職員の課題に応じた研修機会の提供と充実により、教職員の識見を広げ実践的指導力を向上させる。
目標値	各研修会参加者の事後アンケートで「研修会の内容が実践に役立ったか」と「内容が分かりやすかったか」について、肯定的評価が高い割合を占めるようにする。
事務事業の実績	<p>① 職務別研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務主任と研究主任の合同研修（1月）小・中連携 ・研究主任会（7月）学力・学習状況調査の分析等 ・特別支援教育支援員研修会（7月、10月）（山本出張所指導主事協力） <p>② 教職経験者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修及び講師研修（4月）商業高校臨時講師を含む講師対象で服務と学習指導の基礎 ・講師研修（8月）不登校理解の講義、ビデオ視聴とワークショップによる授業研修 <p>③ テーマ別研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育研修会（12月）情報モラル研修（総合教育センター協力） <p>④ 中央の講師の講演聴講</p> <p>総合教育センターの公開講演への参加（指導主事引率で実施）</p> <p>ア 生徒指導(9月) イ 言語活動(10月) ウ 学校評価(10月) エ 道徳(12月)</p> <p>研修形態～集合研修(校外)が中心</p> <p>研修方法～講話・講義、演習(ワークショップを含む)等</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会の事後アンケートを実施した講師研修では、参加者のほぼ全員からすぐに実践に役立つことや内容がわかりやすかったとの評価を得ている。他の研修でも参加者からは肯定的な評価が多く、2月の教育研究所運営委員会でも一定の評価を得ている。 ・多くの研修会が例年実施されているもので、内容や実施形態の工夫に努めたものの、学校や市の課題に応じた時期や内容、研修の要否についても検討を要する。
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修機会の充実のため、学校への「出前講座」の実施や要請訪問の工夫が必要。 ・研修意欲の向上のため、参加型の演習等方法の工夫が必要。 ・全研修での講座事後評価の実施が必要。記述評価の他4段階で数値評価し、「研修会の内容が実践に役立ったか」と「内容が分かりやすかったか」で平均3.5ポイント以上を目標値とする。 ・職務別研修の充実。（教育研究所主催事業の充実、各研究団体等主催への支援、大学等専門家の協力） ・教職経験者研修の充実。（初任者研修、講師研修を別に実施） ・テーマ別研修の充実。（情報教育、外国語活動、図書整備・読書指導等を予定 いじめ・不登校研修は出前講座で全19校悉皆研修、5～7月実施予定） ・中央の講師の講演聴講継続。（生徒指導、特別支援、道徳を予定） ・所長訪問、全学級訪問、教育長訪問を学校の経営力や教職員の資質向上の効果的な研修機会とするために、それぞれの関連性や実施方法について再検討する。

<p>学 識 経 験 者 の 意 見</p>	<p>① 教職員の研修は、保護者の期待に応えるためにも、児童生徒の学力向上の視点からも、また教職員自身の生きがいのためにも欠かすことのできない営みである。</p> <p>ライフステージや職能に応じた研修、さらには、情報モラルや不登校問題など目の前にある教育課題に対する研修が多岐にわたって、実践に結びつく実効ある研修が行われていることは評価できる。</p> <p>一人一人の教師の授業の質を高めるために、専門的力量や指導力の向上に努める必要がある。そしてこの指導力が児童生徒のために確実に発揮されるものでなければならない。また、教師に求められる専門的力量の幅は広く、奥行きは深い。</p> <p>② 特に中学校において生徒数が減少しているため、一教科を一人の教師が担当することが多くなり、校内における研修が孤立しがちである。</p> <p>他校の同教科教員との研修交流の機会が実施されることが望ましい。</p> <p>③ 種々の研修形態が工夫されており、その成果が上がっていると思われる。</p> <p>④ 研修の結果として、それが当該の教職員の職能形成にどのようにプラスになったのかを、教員評価と重ね合わせて見ていただきたい。また、研修成果が学校にどのように生かされているのかも、学校評価の中で追っていただきたい。</p> <p>⑤ 教職員の職能向上、学校の改善の中心は、やはり校内研修にあると思われるので、教育委員会主催の研修が、校内研修の活発化につながるようにしていただきたい。校内研修と、校外研修との体系化を意識していただければと思う。</p>
----------------------------	--

3 社会教育

【生涯学習課】

施策の項目	(1) 生涯学習推進・社会教育振興																																																																													
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習社会の実現に向け、その核となる社会教育を充実させる。 家庭及び地域の教育力向上が重要課題であり、豊かな心、生きる力を育めるよう学校・家庭・地域が連携協力し各種施策を推し進める。 																																																																													
目標値	<p>① 知識や特技を地区活動等に発揮することを心がけている市民の割合：19年度末の18.6%から24年度には25.0%に引き上げる。</p> <p>② 生涯学習指導者、ボランティア登録者数：19年度末の27組から24年度には40組に増やす。</p>																																																																													
事務事業の実績	<p>○学校・家庭・地域の連携協力</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室推進事業（市内全小学校12校で実施） <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">22年度</th> <th colspan="3">21年度</th> </tr> <tr> <th>学校数</th> <th>日数</th> <th>参加者数</th> <th>学校数</th> <th>日数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平日図書室開放</td> <td>8</td> <td>1,389</td> <td>15,113</td> <td>8</td> <td>1,322</td> <td>13,550</td> </tr> <tr> <td>土曜日体育館開放</td> <td>4</td> <td>96</td> <td>2,098</td> <td>4</td> <td>89</td> <td>1,995</td> </tr> <tr> <td>週末等体験活動</td> <td>12</td> <td>51</td> <td>1,343</td> <td>12</td> <td>55</td> <td>1,354</td> </tr> <tr> <td>夏休みプール開放</td> <td>11</td> <td>147</td> <td>6,404</td> <td>12</td> <td>177</td> <td>8,601</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,683</td> <td>24,958</td> <td></td> <td>1,643</td> <td>25,500</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 竹生小学校学校支援地域本部事業（県事業の指定校） 事業内容：ペットボトルキャップ回収、地元伝統芸能講座、英語学習、能代凧づくりなど8事業 学校支援ボランティア：登録者69名 延べ233人 <p>○青少年健全育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 「平成22年度能代市青少年健全育成活動方針」を、市のホームページに掲載するとともに、各自治会長や町内会長へ配布したり、能代市青少年問題協議会の委員の所属する団体の総会や会議で会員に呼びかけ周知に努めた。 家庭教育支援事業「みんなでAction!」を青少年育成能代市民会議とタイアップして実施。（実績は家庭教育支援に記載） <p>○家庭教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 「能代市家庭教育支援方針」に基づき、子育て各期における学習機会の拡充、異世代間の交流機会の拡充等のための講座を実施した。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">22年度</th> <th colspan="2">21年度</th> </tr> <tr> <th>講座数</th> <th>参加者数</th> <th>講座数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家庭教育関係講座</td> <td>29</td> <td>1,226</td> <td>24</td> <td>1,033</td> </tr> <tr> <td>社会参加活動推進事業「みんなでAction!」</td> <td>18</td> <td>中高生 134 受入団体 551</td> <td>8</td> <td>中高生 105 受入団体 233</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>47</td> <td>1,911</td> <td>32</td> <td>1,371</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 「家庭教育に関する本」の貸出し 延べ145人、262冊 ※22年度からの事業で公立保育所や希望する小学校の保護者を対象に実施 家庭教育支援事業推進会議を2回開催（3月は震災のため中止） 家庭教育通信を3回発行 家庭教育支援事業報告書を作成し関係者に配布 <p>○生涯学習指導者の活用、ボランティアの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みんなでAction!」に多くの高校生ボランティアが参加することにより、経験を積んでもらい育成につなげることができた。 崇徳小学校のクラブ活動「檜山舞」の活動支援として、生涯学習奨励員が檜山舞の学習指導や実技指導、発表会での支度の手伝いなど学校との関わりを持った。また浅内小学校のフリー参観日に生涯学習奨励員が参加し学校との 							22年度			21年度			学校数	日数	参加者数	学校数	日数	参加者数	平日図書室開放	8	1,389	15,113	8	1,322	13,550	土曜日体育館開放	4	96	2,098	4	89	1,995	週末等体験活動	12	51	1,343	12	55	1,354	夏休みプール開放	11	147	6,404	12	177	8,601	合計		1,683	24,958		1,643	25,500		22年度		21年度		講座数	参加者数	講座数	参加者数	家庭教育関係講座	29	1,226	24	1,033	社会参加活動推進事業「みんなでAction!」	18	中高生 134 受入団体 551	8	中高生 105 受入団体 233	合計	47	1,911	32	1,371
	22年度			21年度																																																																										
	学校数	日数	参加者数	学校数	日数	参加者数																																																																								
平日図書室開放	8	1,389	15,113	8	1,322	13,550																																																																								
土曜日体育館開放	4	96	2,098	4	89	1,995																																																																								
週末等体験活動	12	51	1,343	12	55	1,354																																																																								
夏休みプール開放	11	147	6,404	12	177	8,601																																																																								
合計		1,683	24,958		1,643	25,500																																																																								
	22年度		21年度																																																																											
	講座数	参加者数	講座数	参加者数																																																																										
家庭教育関係講座	29	1,226	24	1,033																																																																										
社会参加活動推進事業「みんなでAction!」	18	中高生 134 受入団体 551	8	中高生 105 受入団体 233																																																																										
合計	47	1,911	32	1,371																																																																										

	<p>連携に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室週末体験活動で、コーディネーターが複数校での活動を企画したり、生涯学習奨励員が講師や活動リーダーとして参加し活躍した。
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①については、最終目標値「25.0%」に対し、22年度は「15.4%」で、前年度より減少した。市民意識調査は回答者数や年代構成によりその年ごとの変動が大きい、目標に近づけるため平成22年度では、地域人材の活用や作品展示など発表の場の提供に努力した。 ・②については、最終目標値「40組」に対し、22年度は「37組(人)」で、前年度より3組の増となっており、最終目標達成に向け概ね順調に推移している。
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中央・地区公民館祭、寿大学、自主学習グループの作品発表の場を提供していくとともに、より多くの参加や設営準備等に協力が得られるよう主催者と連携を取りながらPRに努めていく。 ○放課後子ども教室体験活動での地域人材の活用を増やしていく。 ○新たに、自分が住む地域への理解を深め、ふるさと能代に愛着をもった子どもを育成するために主として体験活動を推進する「のしろDEマナブ事業」の検討を進めており、24年度からの本格実施にあたっては地域人材の活用を図っていく。 ○学社連携推進会議において、学校に対し、ふるさと学習やクラブ活動に地域人材の活用を働きかけていく。
学識経験者の意見	<p>① 積極的に学社連携に努めていることは評価できるが、生涯学習奨励員が授業等に参加し、学校側にそして奨励員側にどのような効果や課題があったのか、実践が継続し、より効果をあげるためには、絶えず評価をしながら進めることが大事である。</p> <p>② 生涯学習課には、市民の学習ニーズと学習機会を結びつける仕組みが求められる。生涯学習課が先導して行った学習が、自主学習グループとして市民自らの学習生活を創造している例も見られ、そのきっかけとなる幅広い働きかけと場の提供は貴重である。</p> <p>③ 学校支援ボランティアをはじめ、その持っている知識や特技を他者のために役立てようとする人材を24年度まで25%に引き上げようとしていることは、学校教育、家庭・家族、まちづくり、環境、高齢者社会の諸問題を解決する一助になり、自己実現のためにも大事な施策である。 また学習の成果を公共性の高い活動に引き上げ、自己学習を公益的な学習に転化していくことも大事である。</p> <p>④ 学習方法としては、固定した席での講義等よりも、学習者同士の語り合い、共同で作業し合う活動が望ましい。</p> <p>⑤ これからは、ますます学校の教育活動に協力する機会や学校を拠点とする生涯学習の機会は増えていくと考えられる。社会教育から学校教育への支援は、特別の日だけでなく、日頃から情報交換や互いのニーズの把握に努めることがより効果的な学習を生む。このことはボランティアにとっても生きがいになる。</p>

- ⑥ 社会教育計画策定に当たっては、計画づくりへの市民の意向や参画の方法、計画内容の公共性など、社会教育に携わる職員と学習要求との十分な調整が求められる。
社会教育職員が主導しつつ、市民の意向が計画づくりの過程で生かされることが望ましい。
- ⑦ 家庭教育の抱える諸問題は、イコール現代社会の抱える問題である。家庭教育は社会教育の中心的な課題である。家庭教育に関する情報の提供に努め、積極的に家庭教育支援に取り組んでいることは評価できる。家庭は人格や社会人の基礎を培う重要な場である。いっそうの充実した家庭教育を期待する。
- ⑧ 社会教育において、高齢者の問題も避けて通ることのできない課題である。
高齢者の交流の輪が広がり、知らなかったこと、できなかったことがわかり、できるようになることは、生きる楽しみが膨らむことであり、その面からの支援も望まれる。
- ⑨ 知識や特技を地区活動等に発揮することを心がけている市民の割合に関する目標が平成24年度25%となっているが、実態から見て、目標として高すぎるように感じられる。割合を引き上げるための具体的な方策があまり見えないように思われる。
- ⑩ 放課後子ども教室推進事業や家庭教育支援などが盛んに行われており、そのさらなる充実を期待したい。

施策の項目	(2) 文化芸術活動の振興と文化財の保存・継承
方針・目標	市民文化振興事業と文化財保護事業の推進
目標値	<p>○市民文化振興事業の推進 文化月間入場者数 展示部門：5,000人 舞台部門：800人</p> <p>○文化財保護事業の推進 指定・登録文化財数98件（維持） 歴史探訪会の満足度：4以上（5段階評価で）</p>
事務事業の実績	<p>○市民文化振興事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化月間の設定 ※（ ）内は前年度 展示部門：11団体、入場者数4,650人（12団体、入場者数5,935人） 舞台部門：20団体、入場者数900人（20団体、入場者数826人） ・芸術文化団体への支援 能代ミュージカル制作・公演費補助金 能代ミュージカル・キッズ練習会場使用料負担 <p>○文化財保護事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定・登録文化財数：98件（前年度と同数） ・歴史探訪会の実施 市内（檜山周辺の文化財）参加者：18人（28人） 市外（深浦町の文化財）参加者：26人（21人） ・関係諸団体の活動支援 歴史ガイドの会 養成講座の開設等 会員数：48人（43人） 能代市民俗芸能連合会 合同公演・後継者育成事業支援〔補助金〕 県埋蔵文化財センター出張展（烏野遺跡：12/18～1/18）〔共催〕 ・史跡の除草の実施 檜山安東氏城館跡、杉沢台遺跡、柏子所貝塚、鴨巣一里塚 ・遺跡分布調査、発掘調査 本発掘1件、試掘3件、立会2件（試掘1件、立会4件）
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る
	<p>[説明]</p> <p>○市民文化振興事業の推進 文化月間の入場者数については、展示部門で前年度より減少したものの、概ね目標値を達成している。</p> <p>○文化財保護事業の推進 指定・登録文化財数は目標値を達成している。 歴史探訪会については参加者の満足度評価を実施していないが、例年並みの参加者数を維持していることから、一定の評価を得ているものと思われる。なお、平成23年度の市内歴史探訪会で満足度評価を実施したところ、4.4ポイントという評価を得た。</p> <p>以上により、ほぼ目標どおり事業を実施した。</p>

<p>課題及び 今後の取組の 方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組] 市民文化振興に関する事業はそのまま継続する。文化財保護については、文化財の適切な保存に努めるとともに、活用については民間団体等とともに取り組み、市民の文化財に対する関心と理解を深めていく。</p>
<p>学識経験者 の意見</p>	<p>① 県埋蔵文化財センターとの共催での烏野遺跡の出張展が開催され、市民の文化財に対する興味関心を喚起したが、可能な限り発掘調査の途中であっても市民に開示されることが望まれる。</p> <p>② 芸術文化団体、特に子どもの学校外活動を援助していく視点は、すこぶる大事な方向である。</p> <p>③ 社会教育施設を利用しての市民の学習活動を支援し、学習の機会を提供し、学習の成果を披露する場を提供・奨励していることは望ましいことである。</p> <p>④ 市役所の改築が喫緊の課題であり、美術館や歴史資料館の建設に容易く着工できる状況にないことは理解できるが、以前から市民の美術館や歴史資料館の建設を望む声は多く、行政としての見解や見通しが、市民にあってもよい時期ではないだろうか。</p> <p>⑤ 順調に事業が実施されていると思われる。</p>

3 社会教育

【中央公民館・勤労青少年ホーム・働く婦人の家】

施策の項目	(3) 生活や地域における課題解決のための学習機会の提供																																																																																																														
方針・目標	① 家庭の教育力の向上を図る学習機会の提供 ② ボランティア活動の学習支援と活動促進 ③ 高齢社会に即応した学習機会の提供と社会参加の促進 ④ コミュニティ活動の充実 ⑤ 異年齢・異世代交流活動の促進 ⑥ 勤労青少年の交流促進と活動の場の提供 ⑦ 女性の職業生活、家庭生活の支援と学習活動の場の提供																																																																																																														
目標値	前年度実績との比較で、同等あるいは上回ること。																																																																																																														
事務事業の実績	1. 開設講座・事業数 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>講座数</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>39講座</td> <td>238回</td> <td>13,095人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>46講座</td> <td>261回</td> <td>12,927人</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>△7講座</td> <td>△23回</td> <td>168人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">※勤労青少年ホームと働く婦人の家の事業を中央公民館の事業に統合した。</p> 2. 平成22年度開催講座内訳（地区公民館含む・数値は延べ数） <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>おもな事業内容</th> <th>対象</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> <th>H21比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">家庭教育 (幼児教育)</td> <td>親子体験活動</td> <td>年長児と保護者</td> <td>8</td> <td>101組</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>食育体験学習</td> <td>年長児～小学生3</td> <td>6</td> <td>94人</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>保護者の学習</td> <td>保護者</td> <td>9</td> <td>327人</td> <td>△ 40</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">少年教育</td> <td>体験活動・異年齢交流</td> <td>小学生3・4</td> <td>4</td> <td>191人</td> <td>△ 71</td> </tr> <tr> <td>体験活動(地区)</td> <td>地区小学生</td> <td>16</td> <td>203人</td> <td>△ 109</td> </tr> <tr> <td>青年教育</td> <td>ボランティア育成</td> <td>高校生</td> <td>9</td> <td>121人</td> <td>△ 44</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">成人教育</td> <td>テーマに沿った課題学習</td> <td>一般成人</td> <td>8</td> <td>68人</td> <td>△ 152</td> </tr> <tr> <td>集合学習(教養・趣味)</td> <td>一般成人</td> <td>98</td> <td>1,194人</td> <td>△ 123</td> </tr> <tr> <td>働く婦人の家主催講座</td> <td>一般成人</td> <td>6</td> <td>112人</td> <td>△ 1</td> </tr> <tr> <td>勤労青少年ホーム主催講座</td> <td>一般成人</td> <td>0</td> <td>0人</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高齢者教育</td> <td>集合学習</td> <td>高齢者</td> <td>54</td> <td>2,385人</td> <td>△ 535</td> </tr> <tr> <td>世代間交流(高齢者育成)</td> <td>高齢者</td> <td>2</td> <td>93人</td> <td>△ 10</td> </tr> <tr> <td>文化活動</td> <td>公民館祭・文化祭</td> <td>—</td> <td>16</td> <td>7,946人</td> <td>1,247</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コミュニティ活動</td> <td>地域づくり講演会</td> <td>一般成人</td> <td>1</td> <td>110人</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>地域交流(地区)</td> <td>一般成人</td> <td>1</td> <td>150人</td> <td>△ 18</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">合 計</td> <td>238</td> <td>13,095</td> <td>168</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">※勤労青少年ホームの事業と働く婦人の家を中央公民館の事業に統合した。 ※勤労青少年ホーム主催事業（新規）は、2回開催の実施予定が震災で中止となった。</p> 3. 自主学習グループ支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館使用料の減額、施設の優先予約 ・ 公民館祭への参加（作品展示・芸能発表・公開講座） ・ 新規会員募集グループ紹介活動 ・ その他学習相談への対応 	年度	講座数	回数	参加者数	H22	39講座	238回	13,095人	H21	46講座	261回	12,927人	増減	△7講座	△23回	168人	分野	おもな事業内容	対象	回数	参加者数	H21比較	家庭教育 (幼児教育)	親子体験活動	年長児と保護者	8	101組	18	食育体験学習	年長児～小学生3	6	94人	6	保護者の学習	保護者	9	327人	△ 40	少年教育	体験活動・異年齢交流	小学生3・4	4	191人	△ 71	体験活動(地区)	地区小学生	16	203人	△ 109	青年教育	ボランティア育成	高校生	9	121人	△ 44	成人教育	テーマに沿った課題学習	一般成人	8	68人	△ 152	集合学習(教養・趣味)	一般成人	98	1,194人	△ 123	働く婦人の家主催講座	一般成人	6	112人	△ 1	勤労青少年ホーム主催講座	一般成人	0	0人	0	高齢者教育	集合学習	高齢者	54	2,385人	△ 535	世代間交流(高齢者育成)	高齢者	2	93人	△ 10	文化活動	公民館祭・文化祭	—	16	7,946人	1,247	コミュニティ活動	地域づくり講演会	一般成人	1	110人	0	地域交流(地区)	一般成人	1	150人	△ 18	合 計			238	13,095	168
年度	講座数	回数	参加者数																																																																																																												
H22	39講座	238回	13,095人																																																																																																												
H21	46講座	261回	12,927人																																																																																																												
増減	△7講座	△23回	168人																																																																																																												
分野	おもな事業内容	対象	回数	参加者数	H21比較																																																																																																										
家庭教育 (幼児教育)	親子体験活動	年長児と保護者	8	101組	18																																																																																																										
	食育体験学習	年長児～小学生3	6	94人	6																																																																																																										
	保護者の学習	保護者	9	327人	△ 40																																																																																																										
少年教育	体験活動・異年齢交流	小学生3・4	4	191人	△ 71																																																																																																										
	体験活動(地区)	地区小学生	16	203人	△ 109																																																																																																										
青年教育	ボランティア育成	高校生	9	121人	△ 44																																																																																																										
成人教育	テーマに沿った課題学習	一般成人	8	68人	△ 152																																																																																																										
	集合学習(教養・趣味)	一般成人	98	1,194人	△ 123																																																																																																										
	働く婦人の家主催講座	一般成人	6	112人	△ 1																																																																																																										
	勤労青少年ホーム主催講座	一般成人	0	0人	0																																																																																																										
高齢者教育	集合学習	高齢者	54	2,385人	△ 535																																																																																																										
	世代間交流(高齢者育成)	高齢者	2	93人	△ 10																																																																																																										
文化活動	公民館祭・文化祭	—	16	7,946人	1,247																																																																																																										
コミュニティ活動	地域づくり講演会	一般成人	1	110人	0																																																																																																										
	地域交流(地区)	一般成人	1	150人	△ 18																																																																																																										
合 計			238	13,095	168																																																																																																										

	グループ数	人数	男	女
H22	269団体	4,140人	1,197人	2,943人
H21	278団体	4,504人	1,294人	3,210人
増減	△9団体	△364人	△97人	△267人

H23.3.31

H22.3.31

4. 学習記録

- ・受講生による日誌制導入（中央公民館主催講座のみ）
- ・市民学校文集『よねしろ』第7・8号発行

5. 勤労青少年ホーム利用者連絡協議会

	利用グループ数	登録人数
H22	15団体	80人
H21	13団体	100人
増減	2団体	△20人

6. 働く婦人の家利用グループ連絡協議会

	利用グループ数	登録人数
H22	67団体	717人
H21	63団体	718人
増減	4団体	△1人

点 検 評 価

- 目標を上回る ほぼ目標どおり 目標をやや下回る
目標を大幅に下回る

[説明]

- ・講座数、回数とも昨年を下回ったが、参加者数は増加した。
- ・家庭教育、少年教育ではバラエティーに富んだ体験メニューの実施を図った。
- ・成人教育では、教養講座や趣味的講座を開設し、集合学習の機会を提供した。
- ・高齢者教育では、高齢者の学習や社会参加への機会の提供を図った。
- ・自主学习グループは、2つの新たな団体が立ちあがったが、高齢化等により解散をする団体もあり、グループ数、人数とも減少した。
- ・勤労青少年ホーム、働く婦人の家の利用者による連絡協議会のグループ数は、いずれも前年を上回ったが、登録人員は減少した。

課 題 及 び
今 後 の 取 組 の
方 向 性

- 拡充 継続 廃止検討 その他（ ）

[具体的な課題及び取組]

- ・学習成果を地域づくりに活かす仕組みづくりに取り組む。
- ・講座ごとに実施しているアンケートの結果を検討して、新たな講座の実施を検討する。
- ・世代ごとのニーズに即した講座の開設を検討する。
- ・自主学习グループ等の利用者の意向を調査し、利用しやすい施設の運営に努める。
- ・より多くの人々が講座に参加できるよう、広報やホームページを活用するなど事業の周知を徹底する。

<p>学識経験者の意見</p>	<p>① 自ら生きがいや生き方を求めて、市民の学習熱は年々高まってきている。公民館は単なる“貸し館”ではなく、市民の学習活動を保障する貸し館的な機能を有している市民のための教育施設である。市民に学習の機会を提供すると共に、能代の中核的な学習拠点としての公民館の機能の充実が求められている。</p> <p>② 公民館の各事業が、マンネリ化や形骸化を避け、質的充実を図るため積極的に外部の指導者や講師を導入していることは、質の高い行政サービスを市民に提供する観点から評価できる。</p> <p>③ 市民の生活課題と共に地域課題をも把握し、それに関わる学習が行われることが望ましい。併せて学習の成果がどのような現実的な意味を持つのか吟味することが必要である。“転勤奥様教室”など、体験型の学習を取り入れ、地元を学び、能代に愛着を感じ、多様な知識、技能を実践的に習得するよう努めていることも評価できる。</p> <p>④ 講座開設に当たっては、能代の歴史、地勢、気候、交通、産業、人口の増減、市民の生活意識、市民の学習要求等の実態把握の上に立って、事業や講座の計画立案することが望ましい。 また、魅力的な講座にするために、講座のネーミングにも工夫が必要であろう。</p> <p>⑤ 市民が生涯にわたって学習したいという願いを支援し、個人およびグループの学習の機会を提供し、成果を生かすことのできる環境を醸成することが公民館の責務である。公民館で学んだことがらを如何に社会に還元し、次の学習や実践に結びつけていくかが今後の課題である。</p> <p>⑥ 「働く婦人の家」は、公民館の事業に一元化されたが、本来は女性の労働問題を解決および支援のために設立された女性のための施設である。 現在は、女性の労働問題は存在しないのか、十分な検討の上に立って、事業が計画されることが望ましい。 女性教育関係者に対する研修や女性教育の提供、男女共同参画社会の実現に向けて、他の関係機関との連携を図り、事業が展開されることが求められる。</p> <p>㊦ 少子高齢化等により、参加者数が減少することは避けがたく、その中で、多くの努力がなされているものと思われる。</p> <p>㊧ 目標として、昨年度比同等あるいは上回ることがあげられているが、今の状況からすると、目標としては無理があるようにも感じられる。そのため、参加者数等の目標よりも、参加者の満足度や、行動・施策に関する目標を立てた方がよいように思う。</p> <p>㊨ 公民館利用についてのアンケートが行われていることはとても望ましいことである。ただ、出されている要望に対して、どのように「返答」していくのが問われる。特に、トイレなど、施設・設備面での不満に対して、その可否や見通しについて利用者への説明が必要と思われる。</p>
-----------------	---

施策の項目	(4) 芸術文化の振興と福祉の増進を図る			
方針・目標	①主催事業の企画実施 ②芸術文化活動の育成と参加の奨励 ③会館の効率的な利用			
目標値	前年度実績との比較で、同等あるいは上回ること			
事務事業の実績	①主催事業			
	開催日	事業名	内容	入場者数
	1 4/26(日)	高嶋ちさ子と12人のヴァイオリニスト	ヴァイオリンコンサート	709
	2 7/25(水)	音樽〜ノシロックフェスティバル2010〜	15団体出演	500
	3 9/3(金)	22年度松竹特別公演	「香華」	419
	4 9/19(日)	能代市民俗芸能発表会	市内6団体出演	500
	5 9/26(日)	東京フィルハーモニー交響楽団特別演奏会	指揮:小林研一郎による宝くじコンサート	1,200
	6 10/12(火)	六代目三遊亭円楽襲名披露公演	襲名披露に歌丸、文珍、王楽競演	1,181
	7 3/13(日)	わらび座「アトム」	手塚治虫代表作をミュージカルにした作品	604
	22年度合計		7回開催	5,113
	21年度合計		7回開催	5,624
	前年比			△ 511
	②市民芸術文化祭			
		展示部門	舞台部門	
	H22	13 団体 入場者数 7,765 人	20 団体 入場者数 872 人	
	H21	12 団体 入場者数 5,900 人	20 団体 入場者数 826 人	
	前年比	1 団体 入場者数 1,865 人	0 団体 入場者数 46 人	
	③ロビーコンサート (市民が自主開催し、無料で会場を提供)			
	開催日	事業名	内容	入場者数(人)
	1 8/15(日)	第40回 ロビーコンサート	Funny Crew 吹奏楽団	60
	2 9/25(土)	第41回 "	お話玉手箱による朗読会	50
	3 11/28(日)	第42回 "	マンドリンコンサート	130
	4 12/25(土)	第43回 "	Funny Crew 吹奏楽団	50
	5 2/13(日)	第44回 "	商業高校吹奏楽部	100
	6 2/19(土)	第45回 "	工業高校吹奏楽部	70
	7 3/5(土)	第46回 "	北高アンサンブルコンサート	100
	8 3/26(土)	第47回 "	暁亭一門会 ロビー寄席	70
	22年度合計		8回開催	630
	21年度合計		7回開催	730
	前年比			△ 100

点 検 評 価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ・鑑賞型主催事業は催物のジャンルに偏りがないよう計画し、2カ年とも7本実施した。22年度実績は回数では前年度と同数となったが、中ホールが開催の公演もあったため、総入場者数は対前年より伸びなかったものの、満席となる公演が2本あったことから、市民ニーズに合った公演が実施できた。 ・市民芸術文化祭への参加団体や参加人数も伸びている一方で、会館を気軽に利用したロビーコンサートは前年度の入場者数に届かなかった。
課 題 及 び 今 後 の 取 組 の 方 向 性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 () [具体的な取組] ・主催事業費の増加は厳しく、現状維持が予想されることから、各種助成制度を活用した事業の企画を推進しながら、ホームページなどあらゆる機会を通して利用促進を図る。 ・主催事業時に行っているアンケート調査等を活用し、今後の主催事業を検討する。 ・運営業務の委託団体である能代市芸術文化協会のノウハウを活用した事業の展開を図る。
学 識 経 験 者 の 意 見	① かつては、地域開発の資源は「土地・水・労働力」といわれたが、現在のまちづくりの三要素は「自然・歴史・文化」になったといわれる。そのまちづくりの一端を担う文化を市民に提供するのが文化会館の役割である。 ② 舞台での上演や演奏される芸術や芸能・伝統文化に感動することは、豊かな人間性を培うための必須条件である。他の助成制度を活用しながら、低料金で少しでも質の高い芸術・芸能を市民に提供しようと努力していることは評価できる。 ③ ロビー・コンサートは、日常の文化活動を気軽に市民に披露する場になっており、鑑賞人数が多いことに越したことはないが、人数の多少にあまりとらわれずに、発表内容がマンネリ化しないよう配慮しながら、継続していくことが望まれる。 ④ 目標として、昨年度比同等あるいは上回ることがあげられているが、今の状況からすると、目標としては無理があるようにも感じられる。そのため、参加者数等の目標よりも、参加者の満足度や、行動・施策に関する目標を立てた方がよいように思う。

施策の項目	(5) 図書館サービスの充実																																		
方針・目標	市民の学習要求に応えるため必要な資料を広く収集・整理し、平等かつ無料で提供するとともに、暮らしに役立つ利用しやすい図書館となるよう努める。																																		
目標値	より多くの住民に利用される満足度の高い図書館を目指す。																																		
事務事業の実績	<p>○図書館資料の充実</p> <p><蔵書数> H22 151,457冊 (うち郷土資料 13,415冊) H21 150,198冊 (うち郷土資料 12,972冊)</p> <p>・特色ある蔵書づくり「木に関するコーナー」 H22 1,606冊 H21 1,575冊</p> <p>○サービス活動の充実と利用の拡大</p> <p><貸出冊数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>個人貸出</th> <th>団体貸出</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>157,757冊</td> <td>8,717冊</td> <td>166,474冊</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>155,549冊</td> <td>8,195冊</td> <td>163,744冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>(H22) (H21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス・サービス (参考調査)、読書案内 3,051件 2,950件 ・リクエスト (予約) サービス 5,536冊 4,544冊 ・障がい者サービス (家庭配本) 205冊 50冊 ・県立図書館等公共図書館との相互協力 借受 521冊 507冊 貸出 265冊 244冊 ・ホームページの整備と管理 アクセス数 34,386件 28,204件 (H21の数値は、図書館システムの更新により、アクセス件数に2カ月間の未集計期間がある。) ・新企画 としょかん福袋 ジャンルのみを書いた袋に5冊の本を入れ (中身は見えない)、袋のまま貸出を行い、ふだん読んでいる本以外にも興味を持ってもらい、読書の幅を広げてもらおうという企画。12月24日、大人用と子ども用で20袋を用意し即日貸出完了した。 ・市や社会教育施設等との連携 生涯学習課との連携：「子育て・家庭教育に関する本」の貸出 小学校向けと保育所向けの本2セット (1セット15冊) を毎月ごとに施設へ設置 <p>図書館講座</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業内容</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">H22</td> <td>大人のための朗読会 (高校)</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>佐竹本三十六歌仙絵巻流転 (放送大学)</td> <td>65人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>読みあそび</td> <td>154人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○子どもの読書活動の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携・支援 出前おはなし会 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>対象校</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>小学校5校</td> <td>465人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>小学校5校、中学校1校</td> <td>533人</td> </tr> </tbody> </table>				個人貸出	団体貸出	合計	H22	157,757冊	8,717冊	166,474冊	H21	155,549冊	8,195冊	163,744冊		事業内容	参加者数	H22	大人のための朗読会 (高校)	38人	佐竹本三十六歌仙絵巻流転 (放送大学)	65人	H21	読みあそび	154人		対象校	参加者数	H22	小学校5校	465人	H21	小学校5校、中学校1校	533人
	個人貸出	団体貸出	合計																																
H22	157,757冊	8,717冊	166,474冊																																
H21	155,549冊	8,195冊	163,744冊																																
	事業内容	参加者数																																	
H22	大人のための朗読会 (高校)	38人																																	
	佐竹本三十六歌仙絵巻流転 (放送大学)	65人																																	
H21	読みあそび	154人																																	
	対象校	参加者数																																	
H22	小学校5校	465人																																	
H21	小学校5校、中学校1校	533人																																	

一日図書館員（小学校6年生） 2人

学校図書館担当者研修会 14人

学校への希望図書の出前配本

	利用校数	利用回数	利用冊数
H22	8校	17回	442冊
H21	0校	0回	0冊

※平成21年12月から実施

・児童サービスの充実

おはなし会

	回数	参加者数
H22	26回	455人
H21	27回	457人

○ボランティアとの連携

・図書館劇場

	回数	参加者数
H22	1回	78人
H21	5回	264人

・おはなし会【再掲】（児童サービスの充実に記載）

○利用者満足度調査（3年に1度の調査）

	回答者	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	満足度
H22	281人	127人	89人	56人	8人	1人	4.19
H19	298人	118人	75人	86人	18人	1人	3.98

※評価は5段階。

「満足」は5 「やや満足」は4 「普通」は3

「やや不満」は2 「不満」は1

点検評価

目標を上回る ほぼ目標どおり 目標をやや下回る
目標を大幅に下回る

〔説明〕

学校及びボランティアの協力を受けながら子どもの読書活動の振興に努めている。

国民読書年の行事として、市内2校の高校生による「大人のための朗読会」を開催し、大人にも朗読による宮沢賢治の作品や源氏物語を楽しんでもらった。また、放送大学秋田学習センターとの共催で、「佐竹本三十六歌仙絵巻流転」を題材に講演を行い、貴重な歴史絵巻の物語や模写絵巻を楽しんでいただき、図書館所蔵の関連資料にも興味を持っていただいた。

学校への希望図書の出前配本を、平成21年12月から実施し、平成22年3月までは実績がなかったが、再度の案内や学校図書館担当者研修会での周知により、8校で17回、442冊の利用実績となった。

新企画として、12月24日としょかん福袋を行い即日貸出完了した。

不定期開催により22年度行われなかったボランティアグループの行事や震災により延期となった朗読劇（1回）などで、図書館劇場の参加者数が減少した。

3年に一度実施する、「図書館利用者満足度調査」において、全体的にみた図書館に対する満足度（5点満点中）は、今回4.19（H22年）で、前回3.98（H19年）を0.21上回った。

<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の学習要求及び利便性に応えられるよう図書資料の充実を図る。 （「住民生活に光をそそぐ交付金」の活用により、一般図書、参考図書、児童書等の充実。また、小惑星探査機「はやぶさ」の能代企画展の開催の事前学習用として、はやぶさ及び宇宙関連図書を購入し、特設コーナーを設ける。） ・学校や家庭、関係機関との連携を図りながら、読書活動の充実に努めていく。 ・痛みの激しい図書や資料価値のなくなった図書資料の除籍を進めていく。 ・年々増加する図書資料に対応するため、書庫の収容スペースの検討を行う。
<p>学識経験者の意見</p>	<p>① 市立図書館は、市民の知る権利や学習する権利を保障する重要な教育施設である。 市民生活の問題解決や知識・教養の向上など、豊かな暮らしを支援している。</p> <p>② 障がい者サービス、出前おはなし会、小学校や保育所への本の貸し出しなど、図書館職員が図書館から出て、広域的なサービスを行う「館外奉仕」が行われていることは、サービスの平等性から鑑みて妥当な取り組みである。</p> <p>③ 今、子どもたちの活字離れ、読書離れが指摘されている中、公立図書館から出向いてのお話し会や学校図書館担当職員の研修会を開催し、サポートしていることは学社連携・協同の視点から望ましい方向である。児童サービスを行うことは、今後さらに図書館が市民の生活の中に浸透することを意味する。</p> <p>④ 図書選定に当たっては、基準があり、「公平・中立」が基本であるが、「地域・郷土に関する本」「心が豊かになる本」「読者が何か気づいたり、発見できる本」を充実していくことが望まれる。</p> <p>⑤ レファレンス・サービスの充実や郷土資料の収集、他の関係機関の主催する事業への協調、職場体験学習の受け入れなど、ボランティアの協力を得て、時代や社会の要請に対応したきめ細かい図書館サービスが行われている。</p> <p>⑥ 少子高齢化の中で、逆に利用が伸びている面があり、高く評価できる。満足度も高くなっており、今後とも、取り組みの継続をお願いしたい。</p> <p>⑦ 広報や研修等を通じて、学校への希望図書の出前配本が実際に利用されるようになった点は画期的であり、さらなる充実を期待したい。</p> <p>⑧ 目標としては、より具体的なものを盛り込んでいただきたい。</p>

3 社会教育

【子ども館】

施策の項目	(6) 気軽に交流できる環境づくり																	
方針・目標	市民の興味や関心を引きつけような講座やイベントを提供し、気軽に交流できる子ども館となるように努める。 より多くの市民に利用され、安心して気軽に集える子ども館を目指す。																	
目標値	前年度実績を上回ること。																	
事務事業の実績	<p>○利用状況の推移</p> <p>〈総利用者数〉</p> <table border="0"> <tr> <td>H22</td> <td>33,648人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>31,153人</td> </tr> </table> <p>〈プラネタリウム観覧者数〉</p> <table border="0"> <tr> <td>H22</td> <td>4,833人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>5,287人</td> </tr> </table> <p>〈事業活動参加者数〉</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>(件数)</td> <td>(人数)</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>163件</td> <td>6,817人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>146件</td> <td>4,195人</td> </tr> </table> <p>○新規イベント(12件 1,872人参加) (主なイベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男鹿水族館わくわく出前授業(608人) ・澤田弦吾アート展(443人) ・宇宙への夢をのせて～能代南中生徒製作によるロケット展示～(260人) ・おかえり はやぶさ(215人) ・出張展示「縄文土器がドッサリ、二ツ井町烏野遺跡の出土展」(137人) ・星空と和楽器の夕べ(60人) ・星々に想いを乗せて ～オカリナの調べ～(50人) 	H22	33,648人	H21	31,153人	H22	4,833人	H21	5,287人		(件数)	(人数)	H22	163件	6,817人	H21	146件	4,195人
H22	33,648人																	
H21	31,153人																	
H22	4,833人																	
H21	5,287人																	
	(件数)	(人数)																
H22	163件	6,817人																
H21	146件	4,195人																
点検評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>プラネタリウムを取り入れた講座の強化をしたことにより、宇宙への関心が高まった。他の施設、団体と連携した講座を行うことにより利用者の年齢層が広がり、参加者の増加につながった。</p> <p>体験的な講座を増やしたことにより、自然や宇宙に関する関心が高まった。</p>																	
課題及び今後の取組の方向性	<p><input checked="" type="checkbox"/>拡充 <input type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>プラネタリウム用の動画対応プロジェクター導入や天体望遠鏡の更新により利用者の増加を図り、天体観測会や自然観察会の強化に努める。</p> <p>平成23年7月開催のはやぶさ帰還カプセル特別展示に併せて「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」の上映や、展示物については、能代ロケット実験場等へ協力を依頼し、宇宙関係スペースの充実を図りたい。</p>																	
学識経験者の意見	<p>① 子ども館は、子どもの心と体を解き放ち、くつろぐ時間と空間を提供する場としても貴重な教育施設のひとつである。</p> <p>科学的な要素を中核に据えながら、子どもたちの自然体験や観察を積極的に取り入れていることは評価できる。</p> <p>② 子ども館は、親子のふれ合いや親同士の情報交換の場として事業を広げることができるのか検討課題である。</p> <p>③ 常設展示物がいつも同じであると、来館者の伸びを期待することは難しい。また限られた予算の中では、次から次へと展示物を更新することにも困難がある。他の関係施設とネットワークを構築しながら、展示物に変化を与えよう</p>																	

としている努力は十分に感じられる。市民からの展示に適する寄贈品の受け入れも検討してみても如何であろうか。その際、子ども館運営協議会等がその寄贈品を受け入れるか、断るかを協議する必要がある。

- ④ 単なる資料や器具の展示だけでなく、見る・触る・感じるという参加体験型の講座を工夫し、子どもたちの思考力、創造力、表現力を培っている。
- ⑤ 子ども館は、能代の歴史、民俗、自然科学等に関する資料を収集し、展示して教育的配慮のもとに、子どもたちの利用に供しているが、学校との連携が不可欠である。そのためには、運営協議会の協議内容や如何に各学校からの要望に応えることができるかが今後の検討課題である。
- ⑥ 子ども館は、市の管理する施設の中で最も港に近い施設のひとつである。東日本大震災の例もあり、利用者や職員の安心・安全のため、日頃から万全の対策を講じていることが求められる。大震災への対策が十分であるのか、避難経路、避難場所の確保、避難マップの作成・掲示が検討されることが望ましい。
- ㊦ 少子高齢化の中で、逆に利用が伸びている面があり、高く評価できる。
- ㊧ 目標としては、より具体的なものを盛り込んでいただきたい。
- ㊨ はやぶさを始めとして、宇宙への関心が高まっていることから、能代らしさを出した取り組みを今後ともお願いしたい。

4. 市民体育

【スポーツ振興課】

<p>施策の項目</p>	<p>(1) スポーツを楽しめる環境を整える</p>
<p>方針・目標</p>	<p>生涯スポーツ推進のため、総合型地域スポーツクラブの設立支援、学校体育館の開放やスポーツ教室の開催のほか、各種スポーツ大会の支援やスポーツボランティアの育成を行うなど、スポーツを楽しめる環境を整える。</p>
<p>目標値</p>	<p>① 総合型地域スポーツクラブ新規設立準備数 = 1 ② 学校体育館夜間開放利用者数 = 10,995人 ※算出根拠/平成19~21年度・3ヶ年平均利用者数 10,995人 ③ 市民スポーツ教室等参加者数 = 5,770人 ※算出根拠/平成22年度能代市生涯学習関連事業における参加予定人数 ④ 体育協会(加盟団体)運営事業(教室等) = 6教室2事業 ※算出根拠/平成22年度当初予算における委託計画等(主管事業)内容 ⑤ 登録スポーツクラブ団体数・構成員数 = 126団体・2,507人 (内二ツ井地域 28団体・457人) ※算出根拠/平成21年度実績数値 ⑥ 体育施設利用件数・利用者数 = 10,108件・332,929人 ※算出根拠/平成21年度実績数値 ⑦ 体育施設整備事業の推進</p>
<p>事務事業の実績</p>	<p>① 東能代にここにスポーツクラブの平成23年度設立の支援とともに、常盤の里スポーツクラブ(平成19年度認定)及び二ツ井きみまちスポーツクラブ(平成21年度認定)の活動支援を行った。 ② 施設の有効利活用を図り、快適なスポーツ環境を地域住民に提供するため実施している4校(西小・南小・第五小・向能代小)の学校体育館夜間開放事業については、6,595人(対前年度4,451人の減)の利用があり、夜間の重要な活動施設となった。 ※ 対前年度減については、耐震補強工事が行われ、西小が5ヶ月間、南小が3ヶ月間利用できなかったことによる。また、東日本大震災の節電対策で、夜間開放を自粛したもの。 ※ 上記のように、施設休館期間があったが、利用者の理解と協力により、貴重な夜間活動場所の機能をはたした。 ③ ニーズや能力に応じた活動の場の確保や多彩なプログラムを提供し、継続的なスポーツ活動の整備を図るうえから、スポーツ教室や各種大会を開催した。前年度、開催内容・日程等について参加者の意向をアンケート調査し、今年度に生かしたところ、5,642人(対前年度1,246人の増)の参加となった。ますます多様化する市民のスポーツニーズを把握し、それに沿った事業展開を図る。 ④ スポーツ振興方策の基本的方向について相互理解を深め、民間体育団体の一層の強化充実を図るため、主管団体としてNPO法人能代市体育協会に上記スポーツ教室やニュースポーツの普及大会等の運営を委託(6教室2事業)、また、厚生年金能代市体育館、海洋センター周辺施設、能代球場及び市民プールの管理を委託し、民間団体による施設管理運営及び事業運営のノウハウの活用を図った。 ⑤ スポーツクラブの育成と活動の振興を図ることを目的に、体育施設を円滑に利用してもらうための登録制度を従来より行っているが、今年度は、128団体・2,667人(対前年度2団体・160人の増)内二ツ井地域は30団体・620人(2団体・163人の増)の加盟があり、有効で適切な施設運営がなされた。 ⑥ 10,019件・329,112人(対前年度89件の減・3,817人の減)の利用者に安全・安心な施設提供ができるよう営繕に努め、効率的・効果的な施設活用を図り、スポーツ意識の高揚を図った。 ※ 東日本大震災の節電対策で、使用を自粛したことから、それが利用者の減に現れた。 ⑦ 全天候型陸上競技場建設工事に着手。(H23までの継続事業) 落合三面球場トイレ設置工事を予算化。(H23へ繰越)</p>

<p>点 検 評 価</p>	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「東能代にここスポーツクラブ」の総合型地域スポーツクラブ設立への支援及び「常盤の里スポーツクラブ」、「二ツ井きみまちスポーツクラブ」への活動に向けた支援が有効であった。 ・ 各種スポーツ教室等の開催を通じて行ったアンケート調査を今年度も行い、住民要望に沿ったスポーツニーズをさらに把握し、効果的なメニューの提供を行った。 ・ 各種事業開催にあたり、民間スポーツ団体（NPO法人能代市体育協会、スポーツ少年団本部、体育指導委員会、総合型地域スポーツクラブ）主管により効率的に運営された。 ・ 毎年度、新規登録スポーツクラブの参加があり、制度的に確立されてきた。 ・ 全天候型陸上競技場の整備を本格実施した。利用者から要望が多かった落合三面球場トイレを国の補正予算を活用するなどし、着手した。
<p>課 題 及 び 今 後 の 取 組 の 方 向 性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全天候型陸上競技場の竣工（供用開始 H24. 04. 01） ・ 市内全スポーツ施設への指定管理者制度導入を図る。 ・ 各種スポーツクラブの活動は多種・多様・多彩であるが、旧能代市街地地区には包括的な（総合型）クラブがない。民間スポーツ団体（体育協会等）を主管としたスポーツ教室等の企画・運営を支援し、能代市総合体育館を中心とした市街地における総合型地域スポーツクラブの設立を目指す。 ・ 他の公共施設の夜間利用が飽和状態にある中で、学校体育館夜間開放の利用団体による自主的運営を支援し、学校と利用者間の相互理解に努め、事業の継続を図るとともに新規開放施設を検討する。 ※ 23年5月より第四小学校体育館を夜間開放 ・ 各種教室・事業に参加の市民アンケート調査を今後も継続的に行い、魅力あるプログラムを研究するとともに、教室等開催主管団体が直接主催の教室の実施を促す。 ・ ますます多様化する市民のスポーツニーズを把握し事業展開を図る。特に、増加する高齢者を対象とした事業の拡大（シルバースポーツ教室の見直し等）や、高齢者を優先した利用時間の設置（教室的にか一般開放的にか）を考慮する。 ・ 落合三面球場トイレ設置工事等、計画的営繕を行い、施設利用者への適切・快適なスポーツ環境を提供する。
<p>学 識 経 験 者 等 の 意 見</p>	<p>① スポーツは、変化の激しい地域社会にあって、市民の連帯感を育み、生きがいと真の潤いのある生活を営む場として重要な役割を担っている。</p> <p>② 総合型地域スポーツクラブは、「生涯スポーツ」の充実が目的となっており、うたい文句は～大人から子どもまで多世代が多種目のスポーツを楽しむ～あわせてスポーツを通じて、市民同士が絆を深め、「地域の力の再生」につながることも視野に入れている施策である。これまで東能代、二ツ井町、常盤の3カ所にスポーツクラブが設けられ、その実をあげていることは評価できる。 今後、総合体育館を中心とした市街地における総合型地域スポーツクラブの設立を目指しているが、その目指す目的や手順・道筋、運営方法、リーダーの役割、組織づくりについて、ていねいな説明と発足後の手厚い支援が求められる。また、画一的な総合型地域スポーツ振興ではなく、地域の実情にあった施策や方法が講じられることが望ましい。</p> <p>③ スポーツ環境の整備と共に、各ライフ・ステージに応じたスポーツ活動の促進とプログラムの工夫に努めていることは評価できる。</p>

特に、高齢者が長寿社会を生きていくために、スポーツ活動は大事なライフスタイルである。高齢者の利用時間を優先的に考慮することは、高齢者のスポーツ活動を奨励するという観点から望ましい方向である。

- ④ これからは、市民の生きがいのある生活形成を基盤におき、地域の活性化へ向けたビジョンを描きつつ、スポーツの果たす役割を位置づけることが大事である。
- ⑤ 今後、全スポーツ施設の指定管理者制度の導入を視野に入れているが、そのねらいや必然性を市民に十分に周知徹底すると共に、サービス低下にならぬよう指定管理者と行政とのよりよいパートナーシップの構築が望まれる。
- ⑥ 目標値が、過去の実績などに一致するものとなっているが、若干でいいので、より積みました数字をあげた方がいいように思える。
もちろん、何の見通しも、施策・努力もなくして実績が向上するわけではないので、現状等の分析に基づいて目標をたててもらえればいいのではないかと思う。
アンケート調査が実施されていることもとてもいいことなので、そこに表れた満足度などの向上を目標に組み込むことも可能だろう。
- ⑦ 指定管理者制度の導入にあたって、利用者の利便とともに、利用者の安全への配慮、職員の専門性の確保などに留意していただきたい。
- ⑧ 総合型スポーツクラブの設立が目指されており、大いに期待するところであるが、具体的にどのような段取りですすすめられるのか、十分に検討していただき、実現にこぎ着けていただきたい。

Ⅲ 教育委員会の運営状況

(1) 教育委員会の開催状況

- ① 開催状況
 定例会 12回 臨時会 5回
- ② 審議された案件等

年月日	区分	番 号	件 名
H22. 4.27	定例会	議案第 4 0 号 議案第 4 1 号 報告第 4 号 報告第 5 号	能代市立小、中学校、能代商業高等学校学校評議員の委嘱について 能代市公民館活動協力員の委嘱について 能代市奨学選考委員会委員の委嘱について 専決処分した平成 2 2 年度能代市一般会計補正予算について
H22. 5.21	定例会	議案第 4 2 号 議案第 4 3 号 議案第 4 4 号 議案第 4 5 号 議案第 4 6 号 協議 5 協議 6 協議 7 報告第 6 号 報告第 7 号	能代市教育委員長の選挙について 能代市社会教育委員の委嘱について 能代市公民館運営審議会委員の委嘱について 能代市文化会館運営協議会委員の委嘱について 能代市子ども館運営協議会委員の委嘱について 能代市立学校条例の一部改正について 能代市学校給食センター設置条例の一部改正について 能代市立能代商業高等学校授業料徴収条例の一部改正について 能代市生涯学習奨励員の委嘱について 専決処分した平成 2 2 年度能代市一般会計補正予算について
H22. 5.25	臨時会	議案第 4 7 号 議案第 4 8 号 協議 8 協議 9	教育長の任命について 平成 2 2 年度能代市教育委員会関係職員の人事異動について 南部共同調理場建設工事(給排水衛生設備工事)の請負契約の変更について 平成 2 2 年度能代市一般会計補正予算について
H22. 6.24	定例会	議案第 4 9 号 議案第 5 0 号 議案第 5 1 号 議案第 5 2 号 議案第 5 3 号 議案第 5 4 号 議案第 5 5 号 議案第 5 6 号	能代市学校給食センター設置条例施行規則の一部改正について 能代市立能代商業高等学校学則の一部改正について 能代市立能代商業高等学校授業料減免規則の一部改正について 能代市公民館運営審議会委員の委嘱について 能代市子ども館運営協議会委員の委嘱について 能代市立図書館協議会委員の任命について 能代市勤労青少年ホーム運営委員会委員の委嘱について 能代市働く婦人の家運営委員会委員の委嘱について
H22. 7.29	定例会	議案第 5 7 号 議案第 5 8 号 議案第 5 9 号 報告第 8 号	能代市個人演説会の設備の程度及び候補者が納付すべき費用の額に関する規則の一部改正について 能代市公民館運営審議会委員の委嘱について 能代市立図書館協議会委員の任命について 能代市青少年問題協議会委員の委嘱について
H22. 7.30	臨時会	議案第 6 0 号 議案第 6 1 号 議案第 6 2 号	能代市学校給食センターの給食会計事務の処理に関する規則の制定について 平成 2 3 年度使用能代市立小学校教科用図書の採択について 能代市立能代商業高等学校教科書の採択について
H22. 8.27	定例会	議案第 6 3 号 協議 1 0 報告第 9 号 報告第 1 0 号	能代市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について 平成 2 2 年度能代市一般会計補正予算について 能代市生涯学習推進協議会委員の委嘱について 専決処分した平成 2 2 年度能代市一般会計補正予算について
H22. 9.30	定例会	なし	
H22.10.28	定例会	議案第 6 4 号 議案第 6 5 号 議案第 6 6 号 告示事項	能代市立能代商業高等学校学則の一部改正について 能代市学校医の委嘱について 能代市中心身障害児就学指導委員会委員の任命について 能代市立能代商業高等学校生徒募集について
H22.11.24	定例会	協議 1 1	平成 2 2 年度能代市一般会計補正予算について

H22.12.22	定例会	なし	
H23. 1.28	定例会	なし	
H23. 2. 7	臨時会	協議 1 協議 2	能代市公民館条例の一部改正について 平成22年度能代市一般会計補正予算について
H23. 2.22	定例会	協議 3 協議 4	平成22年度能代市一般会計補正予算について 平成23年度能代市一般会計予算について
H23. 3. 4	臨時会	議案第 1号 議案第 2号	平成23年度能代市立小・中学校教職員の人事異動について 平成23年度能代市立能代商業高等学校職員の人事異動について
H23. 3.22	臨時会	議案第 3号	平成23年度能代市教育委員会関係職員の人事異動について
H23. 3.29	定例会	議案第 4号 議案第 5号 議案第 6号 議案第 7号 議案第 8号 議案第 9号 議案第10号 議案第11号 議案第12号 議案第13号 議案第14号 議案第15号 議案第16号 議案第17号 議案第18号 議案第19号 議案第20号 議案第21号 議案第22号 議案第23号 報告第 1号 報告第 2号	二ツ井小学校学校給食実施要綱を廃止する訓令について 能代市学校医の委嘱について 能代市学校薬剤師の委嘱について 能代市教育相談員の委嘱について 能代市適応指導教室指導員の委嘱について 能代市心の教室相談員の委嘱について 能代市社会教育指導員の委嘱について 能代市子ども館館長の任命について 能代市子ども館指導員の委嘱について 能代市体育指導委員の委嘱について 平成23年度能代市教育委員会の重点目標について 平成23年度能代市学校教育指導の重点について 平成23年度能代市社会教育方針について 平成23年度能代市公民館運営方針について 平成23年度能代市文化会館運営方針について 平成23年度能代市立図書館運営方針について 平成23年度能代市子ども館運営方針について 平成23年度能代市勤労青少年ホーム運営方針について 平成23年度能代市働く婦人の家運営方針について 平成23年度能代市市民体育基本方針について 平成22年度能代市生涯学習推進方針について 平成22年度能代市青少年健全育成活動方針について

(2) 教育委員の活動状況

年月日	事業名
H22. 5.20	秋田県市町村教育委員会連合会平成22年度第1回定期総会 (場所：秋田拠点センターアルヴェ)
H22. 5.20	平成22年度全県市町村教育委員会委員長・教育長会議（第1回） (場所：あきた総合支援エリア「かがやきの丘」)
H22.10.21	平成22年度全県市町村教育委員会委員長・教育長会議（第2回） (場所：秋田県総合教育センター)
H22.11.16	秋田県市町村教育委員会連合会平成22年度第2回定期総会および委員研修会 (場所：秋田県生涯学習センター)
H23. 1.19	平成22年度秋田県都市教育長協議会教育長会議（研修会） (場所：大館市「プラザ杉の子」)

能代市教育委員会事務点検・評価報告書
(平成22年度対象)

能代市教育委員会

〒018-3192

能代市二ツ井町字上台1番地1

(担当 教育総務課)

電 話 0185-73-2757

FAX 0185-73-6459

E-mail kyouiku@city.noshoro.akita.jp